

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700227		
法人名	社会福祉法人 小国町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム 森園		
所在地	阿蘇郡南小国町赤馬場3366番地		
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和3年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気作りに心がけ9名のご利用者様を介護職員にとどまらず全職員(パート職員含む)が見守り不穏の際は話を傾聴しご利用者様に寄り添った介護をしています。職員がケアの事に関して自分たちで考え意見を言い合える関係づくりもできてきています。利用者様への個別の支援も出来るように働きかけを行っています。職員もスキルアップを図るため法人が開催している研修へも積極的に参加しています。地域の方たちとの交流に関しては、現在ご利用者様は出来ませんが、職員が出向き今まで作り上げてきた関係が継続するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、住み慣れた地域で、毎日昔ながらの杉山や田畑を見ながら心穏やかに楽しく暮らせるように、入居者の気持ちに寄り添った支援に努めている。運営推進会議において意見交換を続けるなか、委員から入居者の見守りボランティアを申し出る声も聞かれるようになり、地域住民や関係者との関係が深まっている。また、自治会活動や子供会の行事などに積極的に参加して地域との交流も深めている。ホーム出入り口にモニターを設置したり、コロナウィルス感染症対策のための設備を早急に備えるなど、入居者の安心・安全に配慮した生活環境を整備している。季節感や彩りの良い優しい味付けの美味しい食事が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者や職員の気持ちに寄り添ってご縁を大切に、お互いが笑って過ごせる環境づくりを介護理念として掲示し、ご利用者やそのご家族・職員の円滑な人間関係の形成に心がけている。	開設当初の思いが込められた理念を、運営母体が変わっても変更せず入居者支援の基本としている。管理者はケアの場面などで入居者に接する職員の様子、話を聞く姿勢等を見ることで、職員が理念を理解し、意識して実践に繋がっていると確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば地域の行事に参加したり、夏休みには子供デイサービスとの交流などを行っていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症の蔓延により中止となりました。が事業所で自治会の活動に感染症対策に配慮しながら参加させていただき交流を深めている。	地域の組に加入して回覧板をまわしたり、草刈り、清掃、防災訓練などに参加をする等、日常的に地域の一員として交流している。子供会行事である十五夜の子どもの来訪は入居者の楽しみとなっていたが、本年度はコロナ禍のため玄関先で職員のみでの対面となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小国郷あんしんネットワークに参加し、認知症カフェのスタッフとして参加している。また南小国町地域福祉推進委員会や南小国地域包括支援センター運営協議会委員としても会議に参加させて頂いています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い2か月に1回の開催が難しい状況の中、南小国町役場と相談しながら7月10月の2回開催しサービスの状況、外部評価やヒヤリハットの報告を行い会議での意見をサービスの向上に活かせるようにしている。	運営推進会議は、町担当者、町社会福祉協議会、民生委員、地域住民代表、入居者家族代表等がメンバーとなり開催され、多数の前向きな意見や助言が得られている。職員が多忙の時間帯に入居者を見守るボランティアの申し出が委員から出されるなど、支援的な委員会となっている。しかし、今年度はコロナ禍のため、7月と10月の2回の開催のみとなっている。	新型コロナウイルス感染症のため、対面での会議開催が難しい状況の際は、ホームの活動報告や課題事項などを書面にして委員に郵送し、意見や助言を得るなどの取組も期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定申請や南小国町地域包括支援センター運営協議会の委員として会議に参加。また地域ケア会議にも参加し意見交換を図り協力関係を築けるように取り組んでいる。	町の担当者とは日頃から何でも気軽に相談できる関係が構築されている。また役場から災害時の協力要請の相談や、小学生を対象として「介護についての講演」依頼を受けるなど、お互いに協力関係を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について勉強会を開催し「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解できるようにしている。スピーチロック・ドラッグロック・フィジカルロックについて話し合いも行っている。	毎月開催するケア会議において日頃のケアを振り返り、気になることはお互いに注意して拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い入居者と一緒に散歩したり、ドライブに誘う等して気分転換を図れるような支援をしている。ホームは玄関や勝手口等、入居者が出入りする数か所にモニターを設置して、一人で外に出かける入居者の安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法についてスキルアップの研修会で学ぶ機会を持ち、事業所内はもとより近隣においても見過ごさないように注意を払い防止に努めている。日頃の介護を振り返り虐待にならないか検証している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度や成年後見制度について学ぶ機会を持ち必要な人には活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了や、解約する場合は利用者や家族等の不安や疑問点をたずね十分な説明を行い理解、納得を図っている。また利用料等に関しては説明を随時行い経済的な不安や負担などの状況の把握に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者やご家族から意見や要望を引き出せるように積極的にコミュニケーションを図り話しやすい雰囲気づくりを行っている。運営推進会議でも意見や要望について伝えられるようにしている。	入居者や家族からの意見や要望は管理者に報告し、情報は申し送りノートに記録して職員全員で共有している。入居者、家族への説明は担当職員が行うが、内容により管理者が対応することとしている。運営推進会議では入居者家族の意見が、家族代表を通して伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務時に出た利用者に対する意見や対案はすぐに実施できることはその日か実施し実施後の状況を確認するように努め全体会議で共有できるようにしている。また職員との意思疎通を図り、意見を言いやすい環境づくりに努めている。	管理者は、職員が自ら考えて行動できるよう、「どうやったらいいと思う?」、「やってみてどうだった?」と、問いかけを多くして職員の育成を試み、意見やアイデアを出しやすい職場環境整備に心掛けている。ドライブに出掛けるなら入居者の地元にお連れしたいとの職員の提案から、「ふるさと訪問」の実施につながり、入居者に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価、取り組みたいこと、要望などを提出して頂き、管理者を交えての面談を実施し、職場環境をはじめ条件設備に努めた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人が年間計画で開催しているスキルアップ研修への参加要請をはじめ専門的な研修参加への要望に応えスキルアップを図った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当、法人のスキルアップ研修をはじめ、小国郷医療福祉あんしんネットワークへのリモート会議参加要請を図るなど同業者との意見交換を図ることができた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入所の初期は、アセスメントはもとよりご本人の気持ちを受け止める為職員全員が安心感を与えることができる言葉かけを心がけている。困っていることや不安など表情の変化に気を付け馴染みの関係づくりを行っている。職員間での情報の共有も図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時からご家族の立場に立ち思いを理解できるように努め、ご家族の思いや要望など出しやすい関係づくりを心がけている。面会の際には必ず声掛けをし職員へ話しやすい雰囲気づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のご本人やご家族の実情や要望に応じ、今何が必要かケアマネをはじめ全職員が話し合いサービスを開始している。その都度状況を確認しながら必要な支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が個々の力を発揮できるように洗濯干し、たたみなどの作業やレクリエーション活動を共に楽しんでできるように職員全員が言葉かけや連携を図りご利用者と助け合い生活が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際は、日々の生活状況を伝えるようにしています。今年は新型コロナウイルス感染症により面会を禁止させていただいています。毎月ご家族へ状況報告のお手紙を出し状況をお伝えしたり、変化時は電話連絡をさせていただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が培ってきた関係や地域住民との関係が維持できるように支援している。通院時に近所の方が声をかけて下さり職員が間に入ることで会話がスムーズに出来るように支援しています。	地域の子供会で交流があった小学生が、中学生となった今でも手紙の交流が続けられている。「ふるさと訪問」は、現在は入居者と職員だけで行っているが、新型コロナウイルス感染症の終息後には、家族の協力を得てより充実した馴染みの関係の継続が図れるような支援を計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支えあい生活できるように利用者間の関係に配慮している。孤立しないようスタッフが間に入ることでトラブル防止も含め利用者同士の関係支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りの方のご家族との交流もある。住み替えの方にも本人やご家族が安心して移り住むことができるよう支援し、住み替え後の訪問等も実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活、会話の中からご本人の望むこと、好きなものなど察知するように心がけています。困難な場合は利用者本位に立って職員と話し合い意見を出し合って少しでも本人の意向に近づけるよう努めています。	ケア時や入浴時、浴槽でゆっくりしている時などに入居者の思いや希望が聞けるような言葉かけを心掛けている。興奮等の不穏症状が見られる際は、一人になれる空間を用意して見守るなど、一人ひとりの状態に寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様1人ひとりの思いや意向を聞いて把握に努めている。困難な場合は利用者様の日常生活の中からご本人の望むこと、好きな事を察知するよう心掛け職員間で意見を出し合い少しでもご本人の意向に近づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体でご本人が出来る力、わかる力を暮らしの中で発見できるように日々のケアで観察を行い常に情報交換をしている。認知症についての理解も深めより観察力の向上につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各プランの実施状況をチェックしケア会議で課題やケアのあり方について検討している。ご家族の意向も面会時などできるだけ聞き取り反映できるようにしている。	入居者、家族、担当職員の思いを反映した介護計画を作成し、ケアプランに沿った支援と記録となるように取り組んでいる。毎月入居者全員の状況を検討し、プランは基本6か月ごとに更新している。アセスメントについての研修が予定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきなど個別記録に記入している。ケアプランに沿った記録への取り組みを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の同行は一箇所に関わらずその時の状況に沿って対応している。法人内で話し合い必要な時は柔軟な支援を行えるよう取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に1回の見守りボランティア訪問、新型コロナウイルス感染症の蔓延により年5~6回のボランティア訪問や地域の子供たちとの交流・祭りの見学も中止となりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本にが馴染みの医師による医療が継続して受けられるように支援している。その他必要な医療、認知症専門医や眼科、泌尿器科などご本人やご家族の希望を取り入れ受診している。訪問歯科との連携も図っている。	現在8名が定期的にかかりつけ医への通院をしている。受診には看護職員が同行して医療機関、家族との連携を図りながら適切な医療が安心して受けられるよう支援している。急な状況の変化があったときは家族に電話で速やかに報告しているが、通常は、毎月郵送している報告書で家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段からご利用者様の健康に関して看護師と介護職員で話し合い情報交換を行っている。入浴時の気づきなども報告している。利用者様の内服薬や処置についても相談し適切に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病棟師長や担当看護師へ治療の状況やご利用者様の入院中の状況について聞き取りを行い早期の退院に向けて相談に努めている。ソーシャルワーカーにも相談し病院関係者との協働に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について事業所でできる事を再確認しご家族、医療関係チームとの支援がスムーズに行えるように努めています。公立病院と地域医療との連携もスムーズに行えるようになってきている。	看取り指針が整備されている。管理者は入居時にホームで出来ることを説明して、本人、家族が終末期をどのように、どこで迎えたいか意向を聞いている。終末期が近いと主治医の診断を受けた時点で再度、家族の意向の確認をし、家族、主治医、地域の安心ネットワーク等と連携をとりながら対応し、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。	終末期の在り方については、入居時及び状態の変化の都度、本人・家族と繰り返し話し合い、意向を確認することが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて日頃より対応を話しあっている。その都度起こりえる状況について看護師に尋ね実践できるように努力している。救急時の連絡についてマニュアルを作成し表示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練には職員全員が参加する事や、夜間勤務の火災を想定した通報訓練を行い一人一人が身に着けられるようにしている。7月の豪雨災害時にはなごみに全利用者様を避難誘導を行った。	災害時に、昼夜を問わず入居者が安全に、避難できる方法を職員全員が身に付けるよう取り組んでいる。次回の災害訓練には、近隣住民にも参加依頼を予定している。台風、豪雨などの予測できる災害には、地域の特性、立地を考慮して地元消防団、役場と相談をしながら対策に当たっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応について考える機会を持ち、職員間でも意見交換など行っている。特に利用者様については同じ目線に立って対応するように心がけ、その時の表情や言動にも注意しながら声掛けをするようにしてる。	人格の尊厳、プライバシーに関する研修を法人全体で行い、職員の意識を深めている。入居者への言葉かけや対応などで不適切と思われるときは、職員同士注意し合える環境となっている。排泄に関する声掛けなどは、さり気なく他人に気づかれないような対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面において利用者様が思いを伝える事や、自己決定ができるように意図的に関わることで思いを表現できるように取り組んでいる。また、意思表示ができない方も表情や反応を注意しながら観察し、職員全体で得た情報を共有し希望が把握できるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に合わせて過ごせる方にはその時間に行き届くように、その日の状態や動きに合わせて過ごされる方にはその方のペースに合わせて一人ひとりの希望に沿った支援をしている。言葉で伝えられない方は表情や行動など見極めその方のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整容からその人らしい身だしなみに配慮しご自分で洋服を選べるように支援している。選ぶことが難しいご利用者様に対しては色合いや季節感などがちぐはぐにならない様意識している。定期的に美容室に来ていただき整髪に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の作成した献立を参考に入所者様の希望を取り入れ地産地消や季節感を大切にした献立で家庭料理を楽しんでいただいています。ご家族からの差し入れなどもあり献立に取り入れる事もあります。食材切りに参加して頂いています。	基本メニューはあるが、家族の差し入れや、ホームの畑で採れた野菜などが食材になり入居者の要望により変えられることもある。噛む機能や食感を大事にした食事形態を工夫している。誕生日会の赤飯、満開の桜の花を見ながらのお弁当、秋の栗料理など懐かしく季節を感じられる食事を心掛けている。	入居者から、食事を職員と一緒に楽しみたいとの声もあっており、コロナウイルス感染症の終息後には、職員も同じテーブルで同じ食事を一緒に楽しめるよう、再検討することが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全体でご利用者様の好みを把握し食事摂取量が少ない時は好みの物を提供するようになっている。また食事のタイミングはご本人に合わせるようになっている。水分が少ない方にはこまめに声掛けを行ったり、ゼリーなど好まれるものを摂っていただくようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が確認している為、食後の歯磨きやうがいの言葉かけや援助をご利用者様の状態に合わせて行っている。訪問歯科より指導も受けている。うがいは残ったお茶を利用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意・便意の無い方には定期的にトイレの声かけを行い誘導している。夜間オムツ使用している方も日中できるだけトイレに誘導し排泄できるように支援している。夜間はポータブルトイレを使用できるよう提供している。	昼間はトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間のおむつ使用者に対しては、夜間の睡眠を妨げないよう吸収量の多い尿探りパットに変えるなど配慮している。入所時ほぼ寝たきり状態であった入居者が毎日のトイレ誘導により、ADLが向上した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの状況に応じて主治医と相談しながら下剤の調整をしている。毎日牛乳を提供し下剤の減量に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの意向を第一に希望時間や順番を聞きながら対応している。拒否がある場合は無理せずご本人のタイミングをみたり、曜日の変更や職員を変えたり、体調によっては清拭を行うようにしている。脱衣所と浴室の温度差に気を付け、プライバシーにも配慮している。	入浴は週二回を基本としているが、希望があったときは毎日入ることが出来る。浴室にも暖房設備を設置し、シャワー浴の時でも、浴槽に湯を張り保温に努めながら入浴気分を楽しめるよう工夫をしている。重度の入居者には職員二人体制で介助し、安全に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や活動状況をみながら休息を勧めている。夜間眠れない方には温かい飲み物を提供したり、時にはおにぎりを提供したりしている。エアコンの調整を常に心がけている。冬場は乾燥防止のため濡れたタオルを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが服薬している薬の目的や副作用などについて看護師から説明を受けたり、処方箋の世見直しをして容量や用法について理解している。症状の変化など観察し看護師へ報告し主治医と相談しながら服薬調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりの役割が出来ており継続が出来るように支援している。外出や散歩など気分転換が出来るように支援しています。ご本人の嗜好品も周囲の方へ配慮しながら希望に沿えるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やドライブなど外出支援を行っている。ふるさと訪問を行い南小国界隈をご利用者の自宅近所を回るようにドライブを行いました。	例年訪れていた「杖立温泉」の足湯などが今はコロナ禍のため使用できず、車に乗ったまま車窓からの花見や紅葉見物のドライブを行い、気分転換を支援している。ドライブの途中、見慣れた景色や様変わりした様子等について話す入居者の生き生きとした表情から、コロナ終息後の外出支援を楽しみにしている。長時間の乗車が困難な人には近隣の散歩や中庭での日光浴を楽しんでもらえるよう心掛けている。	コロナ終息後は家族にも依頼し、ふるさと訪問の充実や個別の外出支援等も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を持たれている方からの希望があれば買い物支援を行っている。またはお金を使用しない方でも必要に応じてご家族の了解のもと立て替え払いでの購入支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご自分で利用している方もいます。その他の方たちへは必要に応じて手紙を書いて送ったりしています。電話の利用はご家族の希望もありかかった時だけ話して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間には季節感を取り入れたものを掲示したり、季節に応じた草花を飾っています。夏にはテラスや中庭で日向ぼっこやお茶を楽しめる空間を作っています。	清掃担当職員による掃除が行き届いており、明るい清潔感がある生活空間となっている。外出後や、面会后などは消毒液による拭き掃除をこまめにし感染予防に努めている。リビングのソファは間隔も広く、ゆったりとした居心地の良い配置となっている。浴室や廊下の暖房設備を充実し、寒さの厳しい地域性を考慮した生活環境の整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファを用意し利用者様それぞれ定位置が出来上がっている。エントランスにもソファがあり一人になりたいとき利用されることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が自宅で使用していた椅子や家具、仏壇等を置いて居心地よく過ごして頂ける様にしています。身体の状況に応じたベッドの向きを作ることをご利用者様が移動しやすい環境づくりをしています。	居室入り口には家族の用意した暖簾が掛けられプライバシーへの配慮がうかがえる。居室には持ち込まれた家具類、家族の写真、本人の作品などを飾り、家族とも相談しながら居心地良く過ごせるような部屋作りを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせたベッドの柵や状況に応じた家具の配置による転倒の回避や、夜間ポータブルトイレの設置、トイレや居室の表示等一人ひとりが安全で自立した生活ができるように工夫している。		